

富山でふえているニホンジカ

富山県では、最近イノシシがふえ、ニホンジカがふえつつあります。ニホンジカは明治20年代まで氷見地方で狩猟され、明治40年代までは県内で毛皮がつくられていました。その後長い間ニホンジカは生息していませんでしたが、1990年代から県西部などで目撃されるようになり、現在では山麓から山地に広く見られるようになりました(図1,2)。立山黒部アルペンルート沿いや標高2500mを越す高山でも発見されています。富山の大型ほ乳類の一員になりそうです。

ニホンジカのメスには角はありませんが、オスには大きな角があります(図3)。角は毎年春には抜け落ち、年齢とともに枝わかれした立派な角をはやすようになります。よく間違われるカモシカにはオス、メス

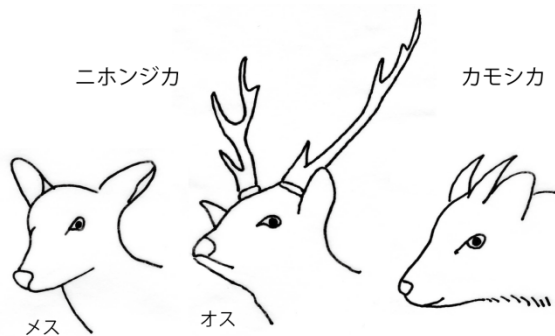


図3 ニホンジカとカモシカの角の比較

ともに短い角が生えます。ニホンジカはオスとメスは別々の群で生活します。メスは自分の産んだ子どもと一緒に生活し、メスの子どもは成長してもそのまま残り、オスは角が伸びる頃に親と離れます。秋の繁殖期には一部の強いオスがなわばりをつくり、なわばり内で一夫多妻になり、大人のメスは春から初夏に1頭の子を産みます(2才で子を産めるようになります)。

ニホンジカは草地と森がある山地で生活し、全国的に増えています。様々な植物の葉や木の皮を群で食べるため、日本各地で様々な問題がおきています。農業や林業の被害(農作物が食べられ、木の皮を食べるため木が枯れる)、林の下にはえる植物が減少し、時には土壌が流出する、夏に高山へ移動して高山植物を食べる、などです。県内でも徐々に増え、農業や林業への被害が少しずつ見られるようになり、今後の増え方や分布の広がりには注意が必要です。(南部久男)



図1.夜間、自動カメラに写ったニホンジカ

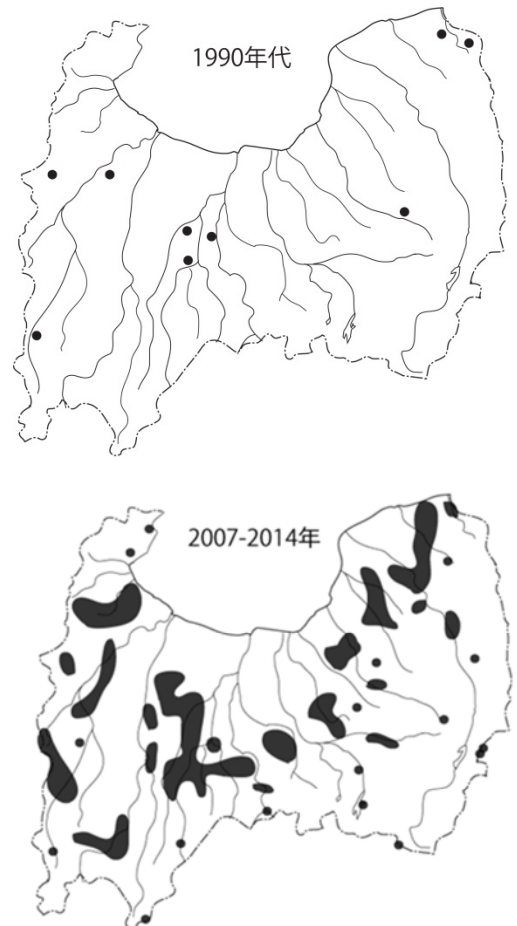


図2. 富山県のニホンジカの分布の変化(上 南部(1997)より,下 富山県動物生態研究会(2015),中部森林管理局富山森林管理署(2014,2015)より作図)。